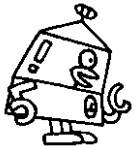


花のつくり、決まりはあるの



たいていの花に、めしべとおしべ、実になる部分（子
ぼう）があることが、花のつくりの決まりだね。

花の役目は、実やたねをつくること

花の役目は、実やたねをつくり、子孫をたくさん残すことです。実やたねは、おしべの花粉がめしべの頭（柱頭）につく（受粉）とできます。めしべだけでは、実やたねはできません。そのため、花には、めしべとおしべが必ずあります。ヘチマなどのように、めしべとおしべが、め花とお花に分かれていることもあります。

また、たいていの花は、チョウ、ハチ、ハエなどのこん虫に花粉を運んでもらっているため、こん虫がを見つけやすい目立つ色の花びらをもち、虫をよびよせる強いにおいや、あまいみつなどをもっています。

そして、大切な花を守るため、つぼみのとき花をつつんでいた緑色がくも、たいていの花には残っています。

花によって、花のつくりの決まりはちがう

イネやスギの花などのように、風が花粉を飛ばして運んでくれる花は、虫をよびよせるための花びらや、みつをもっていません。でも、おしべやめしべはあります。

チューリップのように、がくが花びらに変化してなくなっているものや、タンポポの小花のように、がくが綿毛^{わたげ}に変化しているものもあります。

